

雲仙岳の火山活動解説資料（平成 24 年 10 月）

福岡管区気象台
火山監視・情報センター

火山活動に特段の変化はなく、火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候は認められません。
平成 19 年 12 月 1 日に噴火予報（噴火警戒レベル 1、平常）を発表しました。その後、予報警報事項に変更はありません。

○ 10 月の活動概況

・噴気など表面現象の状況（図 1、図 2-①③）

噴気活動は低調に経過し、8 日、13 日、29 日、31 日に高さ 20m 以下の白色の噴気を観測しました。

・地震や微動の発生状況（図 2-②④、図 3）

火山性地震の月回数は 17 回（9 月：10 回）と少ない状態で経過しました。震源は、平成新山直下の深さ 1～2 km 付近に分布しました。

火山性微動は 2006 年 11 月以降、観測されていません。

・地殻変動の状況（図 4、図 5）

GPS 連続観測では、火山活動によると考えられる変化は認められませんでした。



図 1 雲仙岳 噴気の状況（図中赤丸）
（10 月 29 日、野岳遠望カメラによる）

この火山活動解説資料は福岡管区気象台ホームページ（<http://www.jma-net.go.jp/fukuoka/>）や気象庁ホームページ（<http://www.seisvol.kishou.go.jp/tokyo/volcano.html>）でも閲覧することができます。次回の火山活動解説資料（平成 24 年 11 月分）は平成 24 年 12 月 10 日に発表する予定です。

※この資料は気象庁のほか、九州大学、国土地理院及び長崎県を經由した九州地方整備局（雲仙復興事務所）のデータも利用して作成しています。

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図 50mメッシュ（標高）』を使用しています（承認番号：平 23 情使、第 467 号）。

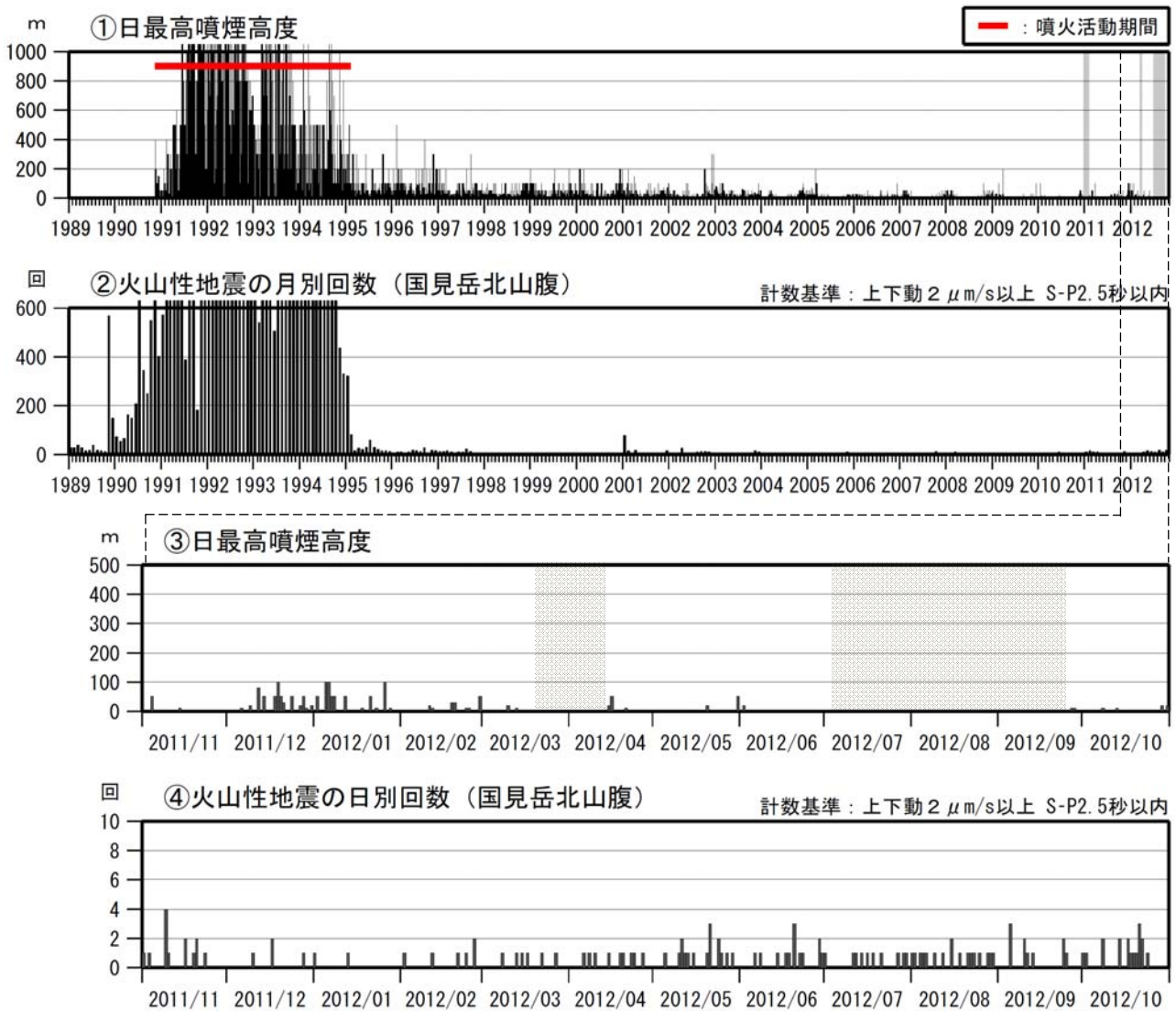


図2 雲仙岳 火山活動経過図（1989年1月～2012年10月）

噴気活動、地震活動ともに静穏な状態で経過しています。

<10月の状況>

- ・噴気活動は低調に経過しました。
- ・火山性地震は少ない状態で経過しました。

火山性地震の回数については、2012年8月31日までは矢岳南西山腹の計数基準（上下動 $5 \mu\text{m/s}$ 以上）で計算しています。

灰色部分は遠望カメラ障害のため欠測を示しています。

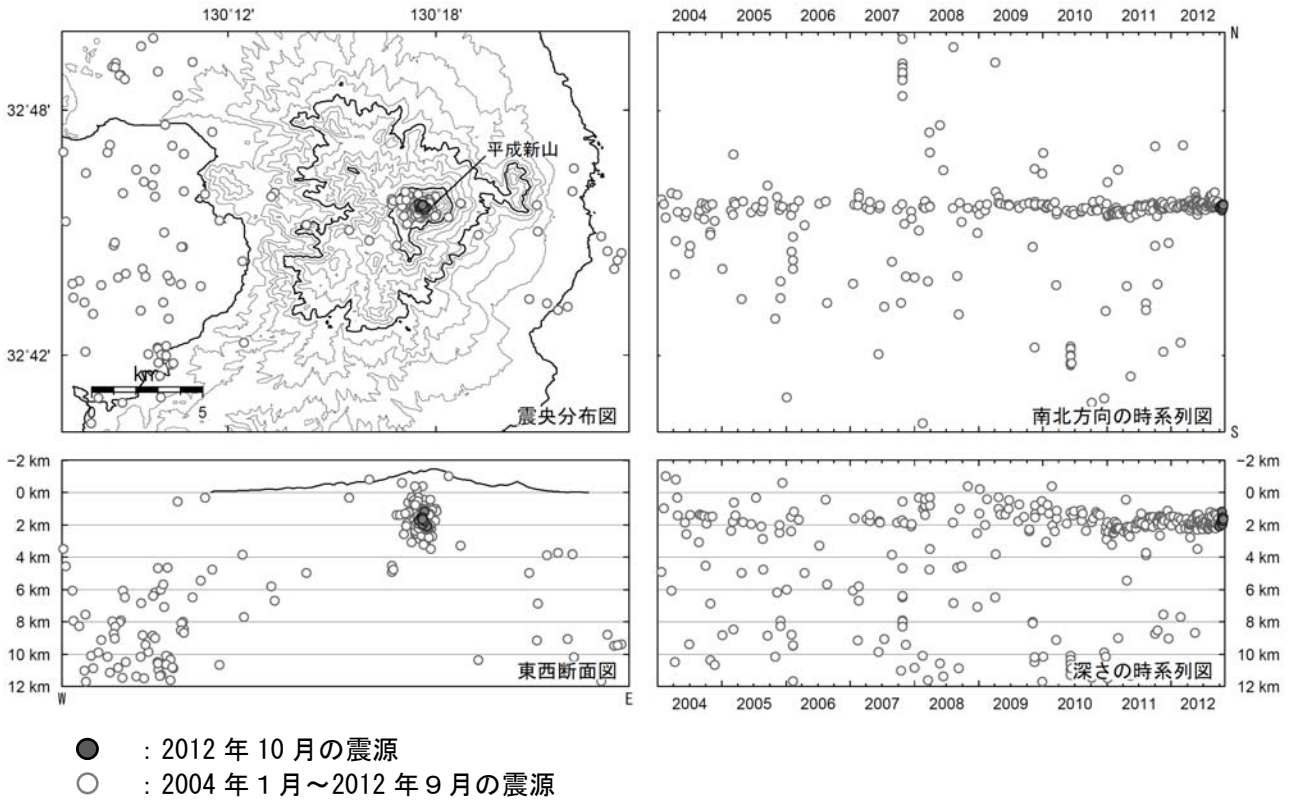


図 3※ 雲仙岳 震源分布図（2004 年 1 月～2012 年 10 月）
 <10 月の状況>
 震源は、平成新山直下の深さ 1～2 km 付近に分布しました。

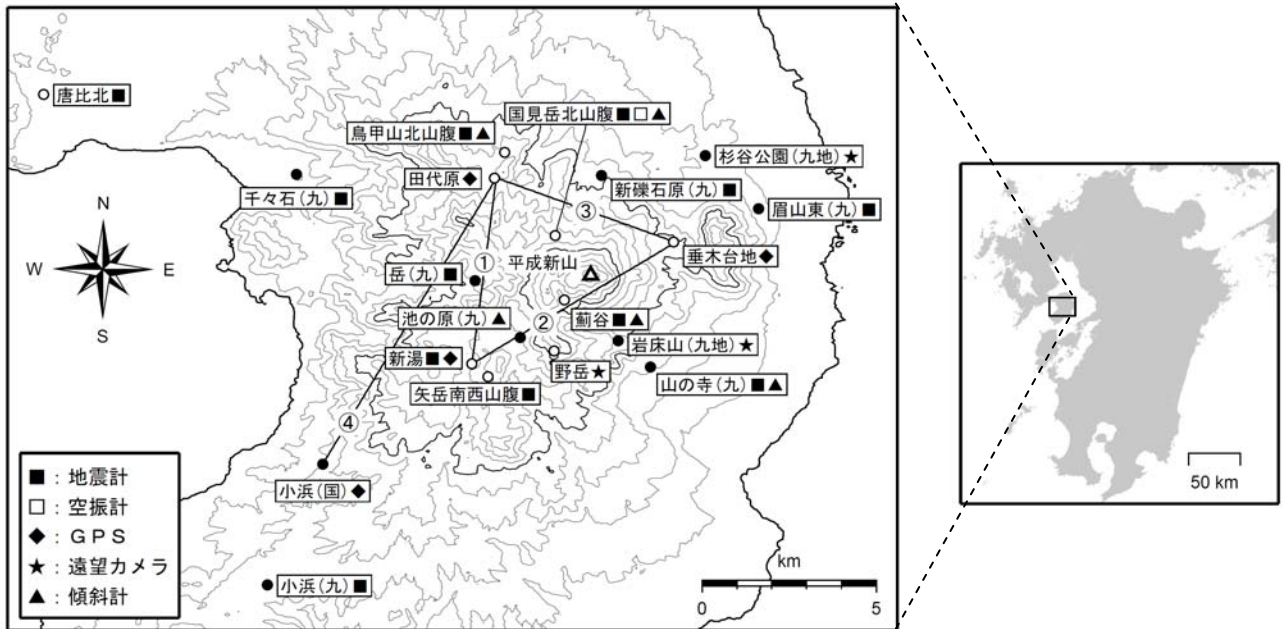


図 4 雲仙岳 観測点配置図
 小さな白丸 (○) は気象庁、小さな黒丸 (●) は気象庁以外の機関の観測点位置を示しています。
 (国)：国土地理院、(九地)：九州地方整備局、(九)：九州大学

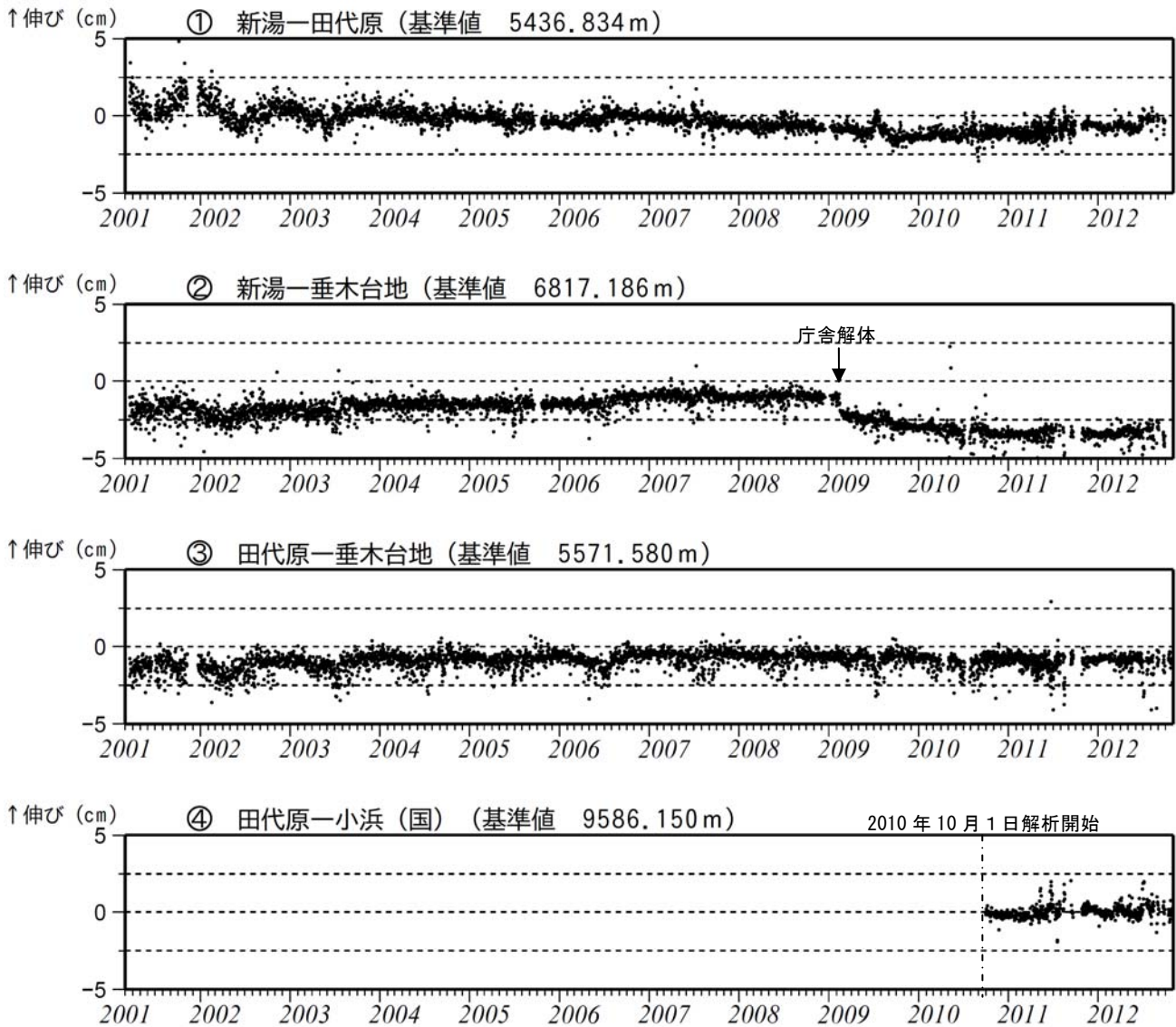


図5※ 雲仙岳 GPS連続観測による基線長変化（2001年3月～2012年10月）
火山活動によると考えられる変化は認められませんでした。

この基線は図4の①～④に対応しています。
②の基線にみられる2009年2月の変化は、雲仙岳観測所の庁舎解体に伴う変動と考えられます。
2010年10月以降のデータについては、電離層の影響を補正する等、解析方法を改良しています。